

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between maternal socioeconomic status and breastfeeding: Results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

母親の社会経済状況と母乳栄養: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福岡ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名: 産業医科大学サブユニットセンター

発表雑誌名: Journal of Child Health Care

年: 2023

DOI: 10.1177/13674935231158842

筆頭著者名: 田中 里枝

所属 UC 名: 福岡ユニットセンター

目的:

本研究は母親の社会経済的状況と母乳栄養状況(1歳時)との関係について検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査のデータを用いて、ばく露因子を教育歴、世帯収入、雇用形態、労働時間とし、アウトカムを子どもが1歳時の母乳栄養の有無とした解析を行った。ロジスティックス回帰分析を用いて、母親の社会経済的因子(教育歴、雇用形態、世帯収入)と母乳栄養(1歳時)の有無との関係を検討した。フルタイム労働者・パートタイム労働者については、労働時間と母乳栄養(1歳時)の有無の関係も検討した。

結果:

75,742人の母親を対象に解析したところ、社会経済的因子と母乳栄養状況に関係が認められた。特に、教育歴が高い母親は低い母親と比較して1歳時に授乳している人の割合が高い傾向が認められた。また、専業主婦の母親は1歳時に授乳している人の割合が高い傾向が認められた。フルタイム労働者とパートタイム労働者のいずれにおいても、労働時間が長い母親は短い母親と比較して1歳時に授乳している人の割合が低い傾向が認められた。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から、母親の就業状況に関わらず、教育的な支援(母親になる人やその家族への母乳栄養についての十分な情報提供)が必要であることが示唆された。母乳栄養の継続には職場環境も重要な要因となる可能性があり、柔軟な働き方の検討が必要かもしれない。日本では母乳栄養を選択する女性が増えている中、その継続状況についてさらなる調査が必要である。本研究の限界として、同意して調査に参加している対象者であるための選択バイアスや質問票による調査の社会的望みさのバイアスの可能性、また家族の支援や詳細な労働状況の情報が不足していること、病気や治療により母乳栄養できない母親を除いていないこと、横断研究のため因果関係は不明であることが挙げられる。

結論:

本研究では社会経済的因子と母乳栄養(1歳時)との関係が示された。母乳栄養の推進には就業状況に関わらず教育的な支援と職場を含めた環境的な支援が大切であると考えられる。